

令和 2 年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に、知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し、日本の伝統や文化を大切に、平和な国家の形成者として、21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子どもを育成する。

たくましい子 元気に運動し、健康でたくましい心と体をつくる。
 思いやりのある子 ルールやマナーを守り、協力して生活する。
 よく学ぶ子 基礎・基本を身に付け、進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と、144年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち、子どもへの愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み、自らの資質を高めるとともに自己変革に努め、教育目標達成のために全力を尽くす。

また、先人に感謝しつつ、母校への誇りと自分の尊厳を高めるような教育活動を展開し、子どもたちに「未来を拓く人間力」を身に付けるため、学び合う集団の育成に取り組む。そのために、児童・教職員・保護者・地域が連携し、多様な活動を通して地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれ地域と共にある学校づくりの推進
- (2) 学び続ける教職員として資質とチーム力の向上
- (3) ○成長し続ける基盤となる知徳体のバランスのとれた力の育成
- (4) ○新たな時代を生きるために必要な資質・能力の育成
- (5) 多様な教育的ニーズに対応した指導・支援の充実
- (6) 教育の焦点化、ICTの活用、協働体制の確立による教育の効率化と教職員の働き方改革の推進

[清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成
 ～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、同施行規則、新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」、宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和2年度指導の重点」を踏まえて、公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため、調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 各教科の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列して、それぞれが充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 「うつのみや学校マネジメントシステム」の結果を受け、本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえて、実態に応じた指導が計画的に行われるようにし、PDCAサイクルを確立して改善を図る。
- (4) 「地域とともにある学校」作りを推進するため、地域の特性や願いをもとに児童に必要な資質・能力を明確にし、地域の人的・物的資源を活用して、社会に開かれた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・チーム及び個人のスキルアップを図る中で、学校運営への積極的な参画を目指す。
- 清原地区地域学校園構想と小中一貫教育としての取組に基づき、体験活動や読書活動などを通して、児童の「生きる力」を育む。
- ・協働と分業のバランスを見極め、時間の効率化と質の向上を目指して業務の見直しを推進し、児童と向き合う時間の充実に図る。
- ・地域の教育力や資源を活用し、教職員の働き方改革を推進するとともに、活力ある教育活動を行う。

【学 習 指 導】

- ・児童に明確な課題意識を持たせ、各教科の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組める発問や学習活動を工夫する。
- ・伝え合い高め合える学級集団の育成に努めるとともに、協働して課題に取り組む態度を養う。
- ・図書を効果的に活用し、必要な情報を得たり、知的好奇心を高めたりする児童の育成に努める。
- ・新たな時代を生き抜くために必要なICT活用能力や国際理解力の育成、郷土学習の充実に図り、教科横断的な視点にたった資質・能力の育成に努める。
- ・自主的な家庭学習への取組を奨励するとともに、家庭への啓発を図る。
- ・積極的な授業公開等を通して児童の学習上の課題解決の手口を考えたり、効果的な取組を共有したりし、資質の向上と学び合う教師集団の育成を図る。

【 児 童 生 徒 指 導 】

- ・児童の参画型の行事運営や自主的な児童活動を推進して児童の主体性やたくましさを育て、自ら判断し行動する児童の育成を図る。
 - ・異学年交流活動を推進し、児童のリーダーシップ及びフォロアーシップ、自己肯定感の醸成を図る。
 - ・学級経営力を高めるとともに多様なニーズに応じた支援を行って、全ての児童にとって居がいのある学級作りに取り組む。
- 【健康（体力・保健・食・安全）】
- ・「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の有機的な関連を図り、健康に生活できる心身の育成を目指す。
 - ・自ら積極的に運動し、健康でたくましい心と体をつくろうとする児童の育成を図る。
- 組織的計画的な部会運営を推進し、効果的な指導を実践する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
指導する児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	意欲的に取り組むような発問の工夫、教材の開発、学習形態等について、教職員同士で考えを提案し、実践する。 1 個に応じた作業プリントや教材等を工夫し、意欲的に授業に取り組むことができるようにする。 2 学習形態を工夫し、互いの考えを認め、学び合いができるように努める。	B	【達成状況】児童肯定的回答 94.2% ・昨年度と比較して、保護者・児童の肯定的回答が 9 割を超えていて、目標は達成できている。 ・1では、少人数指導を充実させ、児童が集中し安心して学べるようコースの設定を工夫した。コースに応じてめあてを明確にし、達成感もてるよう、学習の見通しをもって取り組ませた。 ・2では、学習形態だけではなく、全体での学び合いを積極的に取り入れることで、お互いの考えを認め、深い学びにつながるよう努めた。 【次年度の方針】 ・1では、単元を通したワークシートの作成を行い、児童が考えを整理できるようにするとともに、学習の振り返りをできるように工夫する。 ・2では、ICT 機器を活用した学習形態を取り入れるなど、お互いの考えを共有できるように工夫し、学び合いを進める。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 80%以上	学校活動全般を通して、思いやりの心を育てる教育活動の充実を図る。 1 道徳の授業を通して、仲間と一緒に進んで学び、親切・思いやりの心を育む。 2 読書活動（読み聞かせ・読書まつり）の充実を図り、子どもたちの豊かな想像力を育む。	B	【達成状況】児童肯定的回答 90.1% ・1では、道徳の授業を通して学び合いを楽しみながら進んで行えるよう、授業形態や、児童の心を可視化して共有できる教材の研究と活用を進めた。 ・2では、ボランティア（南風）による読み聞かせや読書啓発活動などを行い、校内の読書活動の推進を図った。 【次年度の方針】 ・1では、道徳の授業を充実させ、生活の場で生かしていけるよう実践への意欲も高めていく。 ・2では、ボランティアの方々だけではなく、教職員による読み聞かせをすることで、本との触れ合いをさらに充実させていく。また、月ごとの読書啓発活動やファミリー読書を推進することで、豊かな心を育てていく。

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」児童肯定的回答 80%以上	児童情報交換会を活用して全職員が共通の認識をもちながら、さまざまな場で子どもにかかわり、それを児童情報交換会で報告する。 1 「清原地域学校園の方針・約束・一日」を積極的に活用する。 2 生活当番活動を活性化し、きまりやマナーについて全体に指導をする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 90.9% ・1では、「清原地域学校園の方針・約束・一日」を掲示し、学校での生活指導・学習指導に活用した。 ・2では、職員打ち合わせでの生活当番の発表をもとに、児童の様子や校内の行事に合わせた生活目標を設定し、指導に役立てることができた。 【次年度の方針】 ・1では、「清原地域学校園の方針・約束・一日」を教室内の決められた場所に掲示し、日常の指導に活用する。 ・2では、生活当番班の担当期間を2週間とし、より児童の実態に応じた生活目標を設定できるようにする。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」児童肯定的回答 80%以上	元気にあいさつし、時と場に応じた言葉遣いを指導する。 1 年に2回、児童会主催のあいさつ運動を実施したり、月に1回、南部地区総ぐるみあいさつ運動を実施したりすることで、意識を高めていく。 2 あいさつの習慣化を主体的に図るため標語の募集やポスターの作成を児童会が中心になって行う。	B 【達成状況】児童肯定的回答 92.9% ・1, 2では、人との接触を避けるために、児童会主催のあいさつに関わる活動は十分に実施できなかったが、南部地区総ぐるみあいさつ運動は実施できた。また、登下校の指導及び朝や帰りの会では、適宜、あいさつの指導を行った。 【次年度の方針】 ・1では、児童同士の接触や密集をできるだけ避け、工夫したあいさつ運動を実施していく。 ・2では、期間限定のあいさつ運動とともに、学級で日常的に行える取組を重視していく。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」児童肯定的回答 80%以上	夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組む姿に対して、称賛・助言・励まし等の支援をし、意欲を高める。 1 持久走大会や各種検定において、より高い目標をもって自主的に練習に取り組めるよう支援する。 2 学期ごとに「学習・生活」のめあてを立て、学期末に振り返りを行うことで、自分の努力の結果と向き合わせ努力の結果を称賛する場を設けて、さらに次学期への意欲を高めるようにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 86.8% ・コロナ感染症拡大防止のため、行事等が中止・変更となった中で昨年から 2.1 ポイントの減少にとどまった。 ・1では、縄跳び検定や鉄棒検定等を活用し、各自が目標をもって取り組めるようにした。 ・2では、毎時間ごとに学習のめあてを明確にし、振り返りを行うことで、次時への意欲を高めることができた。生活においては、週2回の生活目標の振り返りを職員間で行うことで、規範意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・1では、縄跳び検定や、鉄棒検定等を活用し、自主的に取り組めるようにしたい。 ・2では、キャリアパスポートを活用して、目標を明確にするとともに振り返りを行うことでさらに、意欲的に取り組めるようにする。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活をしている。」 児童肯定的回答 80%以上	自分の体は自分で守ることの大切さを指導する。 1 体育の授業において運動量を十分に確保するとともに、運動の楽しさを実感できるようにし、意欲付けを図る。 2 養護教諭と連携し、保健の授業や学級指導の授業を充実させたり、保護者等への啓発を図ったりする。 3 各種たよりやお弁当の日などを通して、食の大切さを指導する。 4 一斉下校集合時に、交通安全や生活安全について全体指導をする。	【達成状況】児童肯定的回答 93.4% ・1では、体力向上を図るために、毎時間サーキットトレーニングを取り入れたことで運動量を確保することができた。 ・2では、学校栄養士業務がTTとして授業に入り、食に関する指導を行うことにより、児童が健康に対する意識を高めることができた。 ・3では、食育だよりやもぐもぐ便り等で家庭への啓発を図ることができた。また、行事食クイズと給食委員会による呼びかけで児童の食への関心を高めることができた。 ・4では、学年下校を今年度実施することで、学年ごとに指導の徹底を図ることができた。 B 【次年度の方針】 ・1では、運動量を高めるため、発達段階に応じた運動について、教職員同士で情報交換を積極的に行う等、指導法の工夫を図る。 ・2では、養護教諭と学校栄養士業務と連携した授業を行い、児童の健康への意識を高めていきたい。 ・3では、お弁当の日に発達段階に応じたためあてにしたがって取り組むことで食への意識を高めていく。継続して食育だよりを発行することで保護者への啓発を図る。 ・4では、学年下校に加えて、月1回の一斉下校と、班長会議を実施することで学校の決まりや安全な過ごし方を確認し、けがのない安全な生活を送ることができるように指導していく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	児童の発達段階に応じて、自分の夢や目標をもてるようにする。 1 「<u>清南ドリームプロジェクト</u>」で「<u>私の夢</u>」を掲示し、意欲を高めるようにする。 2 <u>キャリアパスポート</u>を活用し、<u>宮・未来キャリア教育の充実を図り、自分のよさを生かして協力して働いたり、様々な職業や生き方についての理解を通して、将来についての夢をもてたりするよう指導する。</u>	【達成状況】児童肯定的回答 86.8% ・1では、児童も関心をもって見て、友達の間でお互いに認め合うことができた。 ・2では、学年間の交流や外部との交流が限られる中で、体験活動の機会は少なかったが、各クラスでの日々の活動では行うことができた。 B 【次年度の方針】 ・1では、「清南ドリームプロジェクト」の「私の夢」は継続して掲示し、意欲を高められるようにする。 ・2では、キャリアパスポートは今年度始まったばかりなので、これから積み重ねたものを活用する方法や、保管の方法などを検討する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童肯定的回答 80%以上	子どもたちが意欲的に英語に親しめるような環境づくりを行う。 1 ALTを積極的に活用し、交流する機会を増やす。 2 図書資料や英語教材の充実を図る。 3 クラスルームイングリッシュを積極的に使用し、慣れ親しめるようにする。 4 事前に学級担任とALTとの打ち合わせを行い、効果的な授業の展開を図る。	【達成状況】児童肯定的回答 91.2% ・1では、ALTとの授業をできるだけ多く実施し、ネイティブの発音にふれさせるようにした。また、高学年では教科になったことにより、T1・T2の役割をより明確にした。 ・2では、アルファベットカードを充実させた。また、学校ホームページに簡単なあいさつや会話の動画を掲載し授業で活用したり、家庭に発信したりした。 ・3では、各教室に配布し、授業中に教師や児童が使えるようにした。 ・4では、事前に教材研究をし、ポイントを絞って効率よく打ち合わせができるよう工夫した。 【次年度の方針】 ・1から4において、引き続きALTの活用を積極的に進めていく。特に、高学年では英語が教科になったことにより、全体的に内容が難しくなった。中学年のローマ字の授業から、書くことを意識した指導を行い、高学年の英語にスムーズにつなげていく。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮のよさを知っている。」 児童肯定的回答 80%以上	児童が宇都宮の良さを理解できるように指導する。 1 生活科や社会科の学習で、宇都宮の伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りを持てるような授業を実施する。 2 国語や学級活動の時間で、百人一首の学習を取り入れる。	【達成状況】児童肯定的回答 84.3% ・1では、総合的な学習において黄ぶな作りや新聞作成に取り組み、宇都宮市の伝統文化や産業などに触れることができた。 ・2では、6年の国語の学習でいしえの言葉を学習する際、百人一首に触れることができた。 【次年度の方針】 ・1では、生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を通して、郷土への愛情と誇りをもてるようにする。 ・2では、今後も継続して、百人一首に親しむ機会を設ける。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 80%以上	児童の発達段階に応じて、ICT機器や図書等を活用した教育活動の充実を図る。 1 各教科等の学習において、パソコンや図書資料を活用した調べ学習を、情報教育年計に位置付け実践する。 2 学年の発達段階に応じて、ワープロやプレゼンテーションソフトを活用して「まとめる」学習を取り入れる。	【達成状況】児童肯定的回答 90.7% ・1では、各教科等の学習において、パソコンや図書資料を活用した調べ学習を行っている。 ・2では、各学年の発達段階に応じてまとめる学習にパソコンを使う努力をしてきた。 ・児童の肯定的回答率は、数値的には達成したと言えるが、課題は残る。保護者の肯定的回答率も67.6%と低い。 【次年度の方針】 ・1では、児童の発達段階に応じて、さらに活用を図っていきたい。 ・2では、授業参観などでタブレットを活用したまとめる学習や発表の活動を取り入れたが、さらに保護者へのPRを図る。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 80%以上	教育活動全体を通して、高齢者とふれあう機会の充実を図る。 1 1年生活科の「昔遊び」、3年社会科の「七輪体験」等において、高齢者の方を学習ボランティアとして活用する。 2 「地域ふれあい給食」や「感謝の会」に地域の高齢者やボランティアの方を招待し、交流を図るとともに感謝の気持ちを伝えていく。	【達成状況】児童肯定的回答 90.1% ・1では、1年生の生活科でのふれあい活動、4年のさつまいも収穫や5年の稲作体験で高齢者の方を学習ボランティアとして活用する等、充実した活動ができた。 ・2では、コロナ感染症拡大防止のため、活動は縮小されたが、手紙を書くなどの交流を図った。 【次年度の方針】 ・1では、さらに活用場面を探っていく。 ・2では、地域の高齢者の方とのふれあいを深めるため、行事としての位置付けを再検討する。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」児童肯定的回答 80%以上	学校行事や学習指導において、「持続可能な社会」について学び、関心を持てるようにする。 1 教科や総合的な学習を通して、環境問題や防災等について学び、「持続可能な社会」についての意識を高める。 2 学校行事や委員会活動において、環境や資源を守るための取り組みを行い、「持続可能な社会」づくりへの参画をする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 85.4% ・1では、主に社会科の学習や総合的な学習(宇都宮学)を通して、「持続可能な社会」について学ぶことができた。 ・2では、学校行事や委員会活動において、ごみの減少やリサイクルができなかったため、学校給食や委員会活動による掲示物での啓発活動を行うことで、「持続可能な社会」への意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・1では、教職員の「持続可能な社会」への意識を高め、全教育活動において命やものを大切にする意識を育み、「持続可能な社会」への実践力を養う。また、校内研修を行い、教職員の「持続可能な社会」についての認識を高めていく。 ・2では、社会情勢により学校行事や委員会活動において、ゴミの減少やリサイクル、緑化活動を積極的に行い「持続可能な社会」への参画を行うようにする。
B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 「自分の子どもは、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 児童・保護者回答 80%以上	「清原っ子家庭学習の約束」により家庭学習の習慣化を家庭と連携しながら推進する。 1 授業参観や懇談、学習だよりなどを通じて、機会あるごとに保護者へ状況を知らせ、理解・協力を依頼する。 2 家庭学習に対して称賛・助言・励まし等の支援を適切に行い、児童の課題意識・意欲を高めるようにする。	A 【達成状況】児童肯定的回答 86.8% 保護者肯定的回答 77.1% ・1では、個人懇談や学習だよりを通して、保護者へ状況を知らせ、理解と協力を呼びかけた。 ・2では、個人差に応じた助言・称賛・励ましなどの支援を適切に行い、児童の課題意識や意欲を高めるようにした。 【次年度の方針】 ・1では、発達段階に応じて、自分で課題を設定する力、見通して学習する力、予習復習の大切さについて授業参観や個人懇談、学習だよりを通じて保護者へ状況を知らせ、家庭学習への意識を高める。 ・2では、自主学習の取組を掲示したり、学年だよりなどで知らせたりすることにより、児童の自主学習への意欲を高めるとともに、自主学習に対する家庭への啓発を行う。
B2 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 児童肯定的回答 80%以上	進んで運動ができるような環境を整える。 1 縄跳びの自主的な練習のために、ジャンプ台を用意したり、鉄棒の学習カードを用意したりすることで、楽しく取り組めるようにする。 2 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成をねらって、運動量の多い体育の授業を実践していく。	A 【達成状況】児童肯定的回答 71.4% ・1では、縄跳びの自主的な練習のために、ジャンプ台を用意し、児童の実態に応じて学習カードを用意するなど、進んで運動ができる環境を整えた。 ・2では、サーキットトレーニングや5分間走を実施し、運動量の多い体育の授業を行うことができた。 【次年度の方針】 ・1では、継続して運動ができる環境を整えるとともに、休み時間には低・中・高学年ごとの体力づくりの活動の時間を設定する。また、児童が楽しく体を動かせる運動を紹介していく。 ・2では、ミニマムが達成できるように、サーキットトレーニングや5分間走の内容を見直して実施し、基礎体力の向上を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童当の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた支援を実践する。 1 「生活目標」「清原地域学校園の方針・約束・一日」を積極的に活用し、生活規律・授業規律を整える。 2 分かりやすい授業の展開や個に応じた支援の方法を工夫する。 3 校内支援委員会等を活用し、支援を必要とする児童の把握や適切な支援について検討し、実践する。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 95.7% ・1では、学校生活のリズムを整えて、落ち着いて生活、学習ができた。 ・2では、各担任が工夫したり学年やブロックで連携をしたりしながら実施した。 ・3では、校内支援会議やケース会議を行い、全校体制での支援の方針を決定することができた。 【次年度の方針】 ・1では、チャイムで動く習慣を徹底するため、3校時、5校時は予鈴の他に始業時刻にもチャイムを鳴らすようにする。 ・2では、個に応じた支援のもとに分かりやすい授業を展開できるように、児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用する。 ・3では、毎月の情報交換会での情報を活用し、適切な支援のために全職員が関わるようにする。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 80%以上	いじめの未然防止、早期発見及び早期解消のため、児童理解に努め、信頼関係を築く。 1 年2回の「いじめゼロ強調月間」では、児童会によるいじめゼロ集会や標語の募集、関連する道徳の授業を実施する。 2 日頃より児童の様子を観察するとともに、学級活動及び日常生活の中でいじめは許されない行為であることを継続的に指導する。	B 【達成状況】児童肯定的回答 98.6% ・1では、校内放送でいじめゼロ集会を実施した。各クラスにおいて、いじめに関する標語を作成し、児童の意識を高めることができた。 ・2では、アンケートや児童の様子の観察から得られた情報をもとに、必要な指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・1では、「いじめゼロ強調月間」での道徳の授業の実施について、全クラスで確実に実施できるように発信していく。 ・2では、遊びや清掃など日常の様子を見て、クラス以外の児童も観察して指導し、全職員で全児童を育てるように取り組んでいく。さらに、保護者に対して、学校のいじめ対策への取組を発信し、理解と協力を得られるようにする。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 児童肯定的回答 80%以上	すべての児童にとって、自分の居場所となるような温かい雰囲気のある学級経営に努める。 1 「挨拶」「励まし」「称賛」等の声かけを実践する。 2 児童が主体的に活動する場面や活躍できる場面を設定する。 3 児童や保護者に積極的に関わりをもち、普段からの信頼関係づくりに努める。	B 【達成状況】児童肯定的回答 97.0% ・1では、全職員が自分のクラス以外の児童にも、自分から機会を見つけて言葉をかけることができた。 ・2では、各クラスや学年の活動の中で、全児童が役割をもって活躍できるように、場面の設定を行った。 ・3では、日々の活動での関わりの他、教育相談や学年だよりを通して、情報の発信を行った。 【次年度の方針】 ・1では、情報交換であがった児童への支援体制を充実させるために、職員や場所の有効な活用方法を検討する。 ・2では、接触を最小限にしつつも、児童が互いに関わって一人一人が活躍できる取組を工夫する。また、取組の情報を共有し、効果的な活動を他のクラスや学年でも実施できるようにする。 ・3では、常に児童理解に努めるとともに、保護者と児童の様子について連絡を取り合い、共に支援していく関係を構築する。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	多様な教育的ニーズへの対応強化を図る。 1 情報交換会を実施し、学校全体で特別な支援が必要な児童の共通理解を図る。 2 研修や校内支援委員会を通して、適切な支援の方針について知識や理解を深め、関係諸機関と連携しながら対応する。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 95.7% ・1では、情報交換会を実施し、学校全体で特別な支援が必要な児童の共通理解を図ることができた。 ・2では、研修や校内支援委員会を通して、適切な支援の方針について知識や理解を深め、関係諸機関と連携しながら対応することができた。 【次年度の方針】 ・1では、継続して情報交換会を実施し、職員間での共通理解を図る。 ・2では、継続して関係機関と連携しながら対応していく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」 児童肯定的回答 80%以上	教職員は子どもの悩みを把握し、効果的に教育相談を実施したり、活気ある活動を充実したりする。 1 教育相談の充実及びQ—Uテストの活用により、児童同士の人間関係づくりに努力する。 2 学校行事や児童会活動・委員会活動において児童主体の活動を推進・工夫し、学校生活に潤いを与える。	B 【達成状況】児童肯定的回答 91.5% ・1では、Q—Uに関する職員研修を実施し、Q—Uの結果を基に、円滑な児童の人間関係を構築できるよう学級経営に生かした。 ・2では、コロナ感染症拡大防止を考慮しながら、行事の持ち方を工夫し、児童がいいきと活動できるようにした。また、情報機器を活用した校内放送をする等、児童主体の活動ができるよう工夫した。 【次年度の方針】 ・1では、教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・2では、今年度実施した行事等の反省を生かし、児童主体的の活動が推進できるよう改善と工夫を図る。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 児童肯定的回答 80%以上	発言やノートの記述等から、一人一人の学習状況を見取り、適切に支援するとともに、友達同士学び合う場を設定した授業を行う。 1 習熟度別学習等、個に応じた指導と学び合いの場面を設定する。 2 児童が学んだことを実感できる振り返りの場を設定し、授業改善に役立てる。	B 【達成状況】児童肯定的回答 97.5% ・1では、少人数習熟度別の学習形態を取り入れ、個に応じた指導ができるようにした。児童にとって効果のあがる学習ができるように、適切な支援を行い、子どもの声に答える丁寧な指導に努めてきた。 ・2では、めあてを明確にした授業の展開、振り返りの時間の確保したことにより、わかりやすい授業が行えるよう努めた。 【次年度方針】 ・1では、発達段階に応じた、学び合いの形態を工夫するとともに、児童の実態に即した適切な指導ができるよう教材研究に努めていく。 ・2では、めあての提示、振り返りの時間の確保を行い、児童が自己の学習状況を振り返り、次時へのめあてや意欲をもたせる。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 80%以上	教職員と多様な専門性を有する学校スタッフが、自らの専門性を十分に発揮し、「チームとしての学校」の教育力を発揮できる体制をつくる。 1 教職員と多様な専門性を有する学校スタッフの間で、課題意識等の共有を進め学校におけるチームとしての取組を推進していく。 2 学年・ブロックの枠にとらわれないプロジェクトチームを設定し、OJTを充実させ、コミュニケーションの活性化を図る。	B 【達成状況】教職員肯定的回答 95.7% ・1では、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフは共通の課題を双方の立場から解決しようと意見を出し合い、主体的に取り組めた。 ・2では、学習指導において、それぞれが授業を公開して意見を交わす等、OJTの充実を図った。 【次年度の方針】 ・1では、学校内外のスタッフの連携を図り、さらにネットワークを充実させていく。 ・2では、教育活動全体を通して積極的に関わることで、意見の言えるチームの一員として、よりよいコミュニケーションが図れるようにしていく。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 80%以上	業務の改善を図るとともに、一人一人が勤務時間を意識することにより、働き方改革を推進する。 1 業務を見直し、精選するとともに、チームとして取り組むことで、負担の軽減を図る。 2 一人一人が退勤時刻を設定したり、学校・学年・ブロック等で月に2日程度のリフレッシュデーを設定したりすることで、勤務時間を意識した働き方に努める。	A 【達成状況】教職員肯定的回答 43.5% ・1では、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフがお互いに協力し合い、それぞれの立場を生かし校務に取り組んだが、充分とは言えなかった。 ・2では、月に2日程度のリフレッシュデーを設定したり、退勤時刻にチャイムを鳴らしたりし、勤務時間を意識した働き方ができるよう努力してきた。 【次年度の方針】 ・1では、校務分掌や学年・ブロック単位の組織で、業務の精選と軽減・効率化を図る。 ・2では、互いに声を掛け合うことで、勤務時間を意識した働き方に努め、個人の時間を確保する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」 児童・教職員肯定的回答 80%以上	学校園全体研修会や各部会等で研修に努め、充実した取組を行う。 1 中学校教員の6年生に対する乗入授業を通して、中学校の学習に対する明るい展望がもてるようにする。 2 学校園あいさつ運動により、中学生との交流を図り、コミュニケーション力を高めるようにする。	A 【達成状況】児童肯定的回答 81.1% 教職員肯定的回答 77.3% ・1では、コロナ感染症拡大防止のため、乗入授業が実施できなかったが、中学校が作成したDVDを視聴するなど、やり方を工夫して連携を図った。 ・2では、コロナ感染症拡大防止のため、あいさつ運動が実施できなかった。 【次年度の方針】 ・1では、コロナ感染症拡大防止を考慮しながら、小学校から中学校へ手紙を送る等、内容の改善を図っていく。 ・2では、コロナ感染症拡大防止を考慮しながら、可能な範囲で実施していく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	学習ボランティア等を活用したり、農業体験等、地域の協力を得たりする教育活動を積極的に行う。 1 学習ボランティアを計画的に導入し、授業への参画を図る。 2 <u>地域協議会や清原地域学校園と連携を図り、外部人材の活用を推進する。</u>	B 【達成状況】児童肯定的回答 91.5% ・1では、計画的に家庭、地域と連携を図り、教育活動の充実に努められた。 ・2では、コーディネーターを介して水泳の見守りボランティアを実施したり、地域協議会の協力で4年生の水辺の楽校農業体験を行ったりして活用が図られた。 【次年度の方針】 ・1では、ボランティア団体や人材バンクの整備と活用を図り、授業を充実させていく。 ・2では、学校支援ボランティア年間活用計画の更なる充実に努める。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	積極的に情報を発信し、学校・児童についての相互理解を図りながら、協働して児童の育成に取り組む。 1 学校公開を積極的に行うとともに、学校・学年・学級だよりや各種通信、ホームページを通して定期的に情報を発信する。 2 企業等による出前授業や地域施設への見学等を教育活動に積極的に位置付ける。 3 清原南部地区総ぐるみあいさつ運動や見守り立哨指導等の実施により、児童の望ましい成長を図る。	B 【達成状況】児童肯定的回答 91.5% ・1では、各種たよりやホームページを活用し、情報を発信することができた。 ・2では、状況を見ながら可能な限り実施することができた。 ・3では、月1回の見守り立哨指導から児童の事態を把握し、安全指導や生活指導に活用した。 【次年度の方針】 ・1では、ホームページでの発信を増やし、児童の活躍をすぐに家庭に伝えられるようにしていく。 ・2では、地域や企業との関りを保ち、オンライン形式で取り組むなど、取組内容や方法を工夫しながら実践していく。 ・3では、あいさつ指導を行うことで、地域の方々にも自分から挨拶することができる児童の育成を図る。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員・保護者肯定的回答 80%以上	安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備・器具・用具等の安全点検を実施し、結果に基づき維持管理や改善を図る。 1 月に一度、全教職員による安全点検を実施するとともに、生活当番の巡視の機会等を利用し、日常的な点検も充実させるようにする。 2 学校業務や機動班と連携を図り、よりよい教育環境の充実を図る。	【達成状況】教職員肯定的回答 100% 保護者肯定的回答 90.9% 【次年度の方針】 ・1では、月に一度、全教職員による安全点検を実施するとともに、生活当番の巡視の機会等を利用し、日常的な点検も充実させることができた。 ・2では、学校業務嘱託員や機動班と連携を図り、よりよい教育環境の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・1では、引き続き、安全点検や生活当番の巡視をしていく。 ・2では、引き続き、学校業務嘱託員や機動班と連携を図っていく。
A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 80%以上	学習に必要な図書を充実させるとともに、ＩＣＴ機器などの学習に必要な備品等を計画的に整備する。 1 図書選定委員会を開催し、学習資料として活用できる図書等を整備するとともに、学校図書館司書業務と連携し、年間を通して計画的に図書資料を市立図書館から借りるようにする。 2 デジタル教科書をはじめ、ＩＣＴ機器を授業で積極的に活用する。	【達成状況】児童肯定的回答 90.7% ・1では、図書選定委員会を開催し、学習資料として活用できる図書等を整備するとともに、学校図書館司書業務と連携し、年間を通して計画的に図書資料を市立図書館から借りている。 ・2では、デジタル教科書や書画カメラ・タブレット等を授業で積極的に活用している。 【次年度の方針】 ・1では、学校図書館司書業務と各学年が連携し、必要な図書資料を整備できるようにする。 ・2では、次年度に1人1台端末が導入されるので、更に積極的に活用していくようにする。
B3 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	全職員が授業を公開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行う。 1 考えを深め合える授業研究会を目指した校内研修を行う。 2 話し合いの場を通して、同僚性を高める。 3 <u>地域学校園で連携を図り、研修を一層活性化する。</u>	【達成状況】教職員肯定的回答 95.2% ・1では、研究の方針を示し、育てたい子供像を明確にすることで、研究課題に沿った授業研究会を行うことができた。 ・2では、授業研究会で、活発に話し合いを行うことで同僚性を高めることができた。 ・3では、地域学校園での授業公開ができなかったことにより、校内で行った授業を紙面上での情報交換を行うことができた。 【次年度の方針】 ・1では、研究課題を明確にし、それぞれの教職員の専門性を取り入れ、考えを深め合える授業研究会および校内研修を行っていく。 ・2では、校内研修や研究会だけでなく、ブロックや学年内において、話し合いの場を多く持つようにし、OJTを活発にしたり、互いの情報を共有したりすることができるようにする。 ・3では、社会情勢により地域学校園の連携を図りながら研修を進め、各学校の指導に生かせるようにする。

本校の特色・課題等	B 4 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせ・農園活動・登下校の見守りの時など地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	1 本とのふれあい:朝の読書活動を充実するとともに、調べ学習を充実したものにする。 2 地域とのふれあい:<u>あいさつ運動や地域ボランティア、体験農園活動等を通して人間関係を深める。</u> 3 人とのふれあい:縦割り班活動や学校行事等を通し、リーダーシップ、思いやり、協調性を育てる。 4 学習ボランティアの充実により、教育活動を豊かにする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 86.5% ・1では、読書の質を高めたり調べ学習での活用を増やしたりすることができた。 ・2では、感染症拡大防止のため、あいさつ運動が中止となった。5年稲刈り体験活動と4年さつまいも掘りは実施できた。 ・3では、縦割り班活動や学校行事が大きく制限された中で、できる範囲で工夫して活動することができた。 ・4では、水泳見守りや季節掲示物作成、読み聞かせボランティアを活用することができた。 【次年度の方針】 1では、学級文庫を新しくし、読書の質を上げられるようにする。 2では、あいさつ運動の実施内容や方法を検討し実施する。日常的な指導を重視し、日々のクラス生活の中にあいさつ指導を位置付ける。 3では、縦割り班活動や学校行事の内容を検討して、感染症対策を講じながら実施できる範囲で行う。児童同士の関わりを大切にし、思いやりや協調性を育てる。 4では、学習ボランティアの充実により、教育活動を豊かにする。
	B 5 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、地域の行事やボランティア活動に参加している。」 児童・地域肯定的回答 80%以上	学校と地域が連携協力して、児童を育成する環境づくりを推進する。 1 地域行事の情報を積極的に収集するとともに、児童への称賛・励まし等の支援を意図的に行い、意欲を高める。 2 必要に応じて教職員が、参加・協力することで、地域の方と顔の見える関係を築く。	【達成状況】 【次年度の方針】 ※今年度は実施なし

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

○清原地域学校園教育ビジョン「自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成～人との豊かなかかわりを通して～」に基づき、児童の「生きる力」を育ててきた。今年度はコロナ感染症拡大防止のため小学生と中学生の直接的な交流活動を中止としたが、学校園における共通の取組（食育・読書）及び職員研修（今年度はメールや紙面における授業実践研究・情報共有）を実施し、地域学校園と連携を図ることができた。

- ・本校は、職員が全員チームとなり、業務に協力して取り組むことができています。
- ・教職員の働き方改革については、達成は十分とは言えなかった。教職員の業務は授業が中心であるが、各々が担う校務分掌の仕事や学年内での役割があり、日々多忙である。業務改善を図るために、校内組織の再編成やPDCAサイクルによる取組、情報や資料の共通理解、OJTの推進、教職員の意識変革を進めていく。

【学習指導】

- ・個を大切にした指導、学びを実感できる授業展開（発問の工夫、教材の開発、学習形態等）の工夫については、概ね目標を達成している。児童が学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるような授業展開を行うとともに、児童が互いに学び合い、考えを深め、広げられるような学習形態を意識した授業改善・実践を行っていく。また、授業参加や、学年だより、学習だより等を通して学校の取り組みの状況を発信し、保護者の理解と協力を得られるようにする。

○「持続可能な社会」についての教職員の理解度には課題が見られた。社会科や総合的な学習の時間をはじめとした全教育活動において効果的な指導が行えるよう、職員研修などの機会をもち教職員自身が「持続可能な社会」についての理解を深められるようにする。家庭学習への取組については、保護者との連携に課題が見られた。地域学校園共通の「清原っ子家庭学習の約束」「家庭学習のすすめ」の内容を懇談会で話題に挙げながら、家庭学習の目的や学力定着への効果について理解を得ていく。

○外国語活動の授業やALTとの交流については、概ね目標を達成している。高学年では、英語科となり、今までよりも内容が難しく、聞く、読むに加えて書くことも意識した授業の展開が必要になってくることから、中学年でのローマ字学習の定着が図れるようにする。また、学級担任が英語のスキルを身に付け、児童と英語でのやり取りを行った授業の展開が図れるようにする。

【児童生徒指導】

・「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」では、「清南3つのやくそく」を活用したり、時期に応じた生活目標を設定してクラスや朝会で指導したりすることで、児童の意識が高まってきた。

○「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」では、中学生とのあいさつ運動が行えなかったり、代表委員を中心とした児童会でのあいさつ運動も行えなかったりするなど、児童があいさつに関する意識を高める機会がなかった。地域と連携した登校指導においては、安全指導と併せてあいさつ指導をすることができた。

・「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」では、校内支援会議やケース会議の内容を基に、クラスの実態に応じた個別の支援を行うことができた。

・「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、道徳の時間や「いじめゼロ強調月間」の活動を通して、いじめに対する児童の意識を高めることができた。また、教育相談やいじめアンケートの実施によって児童一人一人と話す機会をもち、話をよく聞くことで、いじめの未然防止・早期発見をすることができた。

・「本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。」の評価項目では、可能な範囲での縦割り班活動や学校行事での児童同士の関わりや、地域人材を活用した読み聞かせや農業体験活動での地域の方々との交流等、様々な人と関わる機会を設けることで、心の豊かな児童の育成を図ることができた。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・体力、保健、食、安全に関する教育活動を継続的に実践してきた。児童は、健康で安全な学校生活を送ることができている。

・「休み時間や放課後の運動」については、休み時間にも児童が運動に親しめるよう環境づくりに努めてきたが、児童の肯定的割合が目標より低く、課題が残った。体育や保健の授業を通して、運動の楽しさや健康の大切さを実感させ実践につなげていく。また、時間や場所をとらない簡単に行えるストレッチ運動などを紹介し、家庭でも行えるよう支援していく。

○元気づき健康体力チェック（新体力テスト）の結果を地域学校園で共有し、授業改善に努めることができた。

7 学校関係者評価

【学校運営】

・「私は、今の学校が好きです。」の児童肯定的回答が高いなど、殆どの評価項目が数値指標を上回っている。新型コロナウイルスにより、学校運営の舵取りが難しいと思うが、教職員の熱心な指導により、児童はしっかり学校で学ぶことができている。

・心が豊かで優しい児童が多い。地域の方々や学習ボランティアとの交流、読書習慣が身につく、「静」と「動」の教育がしっかりされているからだと思う。

・コロナ感染症拡大防止の中で、工夫した活動を行っている。核家族が進む中、高齢者と触れ合う活動やQ—U等を通して、円満な人間関係を構築していく取組はとても良い。毎年行っている高田沼の田植えや稲刈りは、児童が楽しく作業している姿を見て、こちらも楽しく手伝うことができた。今後も続けてほしい。

・コロナ渦で大変であるが、6年生と中学校の交流をできる範囲で実施してほしい。

・教職員の「チームとしての取組」と「勤務時間、業務の効率化」の肯定的割合に差が出ており、心配である。

・教職員の勤務時間、業務の効率化が気になる。今年度は、何もかも初めての試みが多く、教職員もいつも以上に気を使ったことと思う。しかし、児童への気配りや指導に関係するので、教職員の働き方及び職場環境改善をお願いしたい。

・教職員には、業務負担を少しでも軽減し、余裕を持って指導をしていただきたい。そのためには、地域と連携し、地域ぐるみで児童を育てていければと考える。

・育成会の1年から6年児童が、河川での生き物調査や農園でのさつまいも掘りに参加し、地域と交流を深めることができた。

・読み聞かせボランティア活動に参加しているが、児童とコミュニケーションが図れて楽しく、良い関係が築けている。

【学習指導】

・児童は分からないことがあれば、互いに教え合い、教養を高め合っている。

・いろいろな取組に感謝している。学習活動全般を通して、児童は積極的に取り組んでいる姿が見られた。

・少人数学習の充実や個に応じた教材活用など、発達のレベルに合わせた学習はとても大切な要素である。かがやきルームの学習は、とても分かりやすく楽しく取り組んでいる。

・タブレットを学習活動に取り入れることの良い点、気を付けなくてはいけない点を児童にしっかり理解させてほしい。その上での授業力及び学力向上を期待する。

・これからは英語が必要になる。タブレットを活用して、遊びながら学べるプログラムがあると良いと思う。

・「持続可能な社会」における肯定的割合が、教職員と児童では大きく乖離していることが気になった。特に、教職員は昨年度より大きく下がっている。「持続可能な社会」は、これからの社会において基本的な考え方になる。児童との差がどこにあるのか、教職員の教え方に不安があるのか、児童のリアクションが少ないのか、掘り下げて検証し、改善していただきたい。

・「宇都宮のよさ」「パソコンや図書等の活用」の保護者の肯定的回答は高くない。これは、保護者自身の責任もあると思われる。児童に対して、情報を発信したり体験を共有したりすることが大切である。

【児童生徒指導】

・全職員で全児童を育てる方針やクラス以外の児童に挨拶、励まし、称賛の声かけをする取組がとても良い。農業体験の際にも、教職員が児童一人一人を大切にしていることが見て取れた。

・学校に行くと児童がいつも元気に挨拶をしてくれるので感心している。教職員の指導がしっかり伝わっていると感じる。

・登下校時の防犯活動や青色防犯パトロールのときは、児童は大きな声で挨拶をしてくれる。

・登下校時における挨拶は、児童肯定的回答ほど高いとは感じられず、課題である。

・いじめに関する評価項目は、児童肯定的割合が非常に高く、すばらしい。いじめはいけなことを繰り返し指導することで児童が共に認め励まし合い、不登校を出さないことができていると思う。いじめゼロ強調月間での道徳授業の実施も引き続き行っていただきたい。

・「夢や目標に向かって粘り強く取り組む」では、児童と保護者の肯定的割合にギャップがある。保護者は期待している分、厳しく評価をしてしまうのかもしれない。大きな目標と目の前の小さな目標を適切に示し、成長を促したい。また、教職員の肯定的割合が昨年度より下がり、かつ今年度の児童肯定的割合よりも下回っていることは残念である。

・今年度、下野新聞において本校に関する記事（詩の授業など）を多く拝見した。情報発信やPRの取組がすばらしい。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・休み時間の様子を見てみると、児童が活発に動いている姿が見られ、微笑ましい。また、縄跳び検定や鉄棒検定を活用し、目標に向かって粘り強く取り組ませたり、運動する機会を確保したりしているところがとても良い。

・「進んで運動」について、児童の肯定的割合が数値目標に達しなかったのは、コロナの影響があり、放課後に外で遊ぶ機会が少なくなり、家庭内でゲーム等で遊ぶことが多かったからだと思う。そのため、保護者の肯定的割合も低く、児童は運動を進んでしていないと捉えている。本校児童は、体力不足や肥満傾向が見られるので、友達と競い合って運動する環境づくりをお願いしたい。また、家庭で過ごす時間が増えたので、親子でできるストレッチなどを児童に教えたとよい。

・児童が安心して生活できるよう、生活当番の巡視及び月に一度の安全点検をしていただき感謝している。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

○地域学校園と連携を図り、児童の「生きる力」を育む教育活動に取り組んでいく。特に、6年生が希望を持って中学校に進学できるように、工夫した交流活動を実践していく。

・コロナ感染症拡大防止に努めながら、ねらいや目的の明確化、実施内容・時間・場所等の工夫を凝らし、児童が達成感を味わえる教育活動を実践していく。

・教職員の働き方改革に、より一層取り組む。教職員の意識改革や業務内容改善に加え、地域との連携強化を図り、地域人材や資源を直接的・間接的に活用し、業務負担の軽減に努める。

【学習指導】

・児童が互いに学び合い、考えを深め、広げられる学習を目指し、授業改善・実践を行っていく。そのために、学級経営において、一人一人の良さを認め合い、信頼できる関係づくりを構築していく。

・一人一台タブレット端末の導入に備えて、情報メディア教育の充実を図る。教職員の研修を行い、発達段階に応じた活用の仕方について研究し、児童が授業で有効に活用して学習効果を高めていけるようにする。

・「持続可能な社会の担い手」の育成が新学習指導要領に掲げられている。その視点を踏まえて、本校の教育課程が編成され、教育活動及び教科等の指導が行われていることを学校全体で再認識し、具体的な取組について共通理解を図る。

○地域学校園共通の「清原っ子家庭学習の約束」「家庭学習のすすめ」を通して、家庭学習の充実を図る。

【児童生徒指導】

○学校内では挨拶ができるが、学校外になると学校内ほどできてはいない実態が見られた。挨拶の意義や大切さを考えさせたり中学校や地域との連携を工夫したりして、実践的態度を育てていく。

・認め、励まし、称賛する指導を行い、自己肯定感を高め、一人一人にとって居がいの教室づくりに努める。

・日々の児童理解、定期的なアンケート調査や教育相談を実施し、いじめや不登校等の未然防止及び早期発見・早期解決に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・全般的に健康面において良好である。しかし、個人差が見られるので、改善を必要とする児童については、家庭の協力を得ながら丁寧な指導を続けていく。

・児童が安心して運動に楽しめる環境づくりに努める。さらに、検定カードを利用し自己目標を目指す運動や友達と競争する中で自己の力を伸ばせる運動を適宜紹介し、体力向上を図っていく。家庭における適度な運動も推奨していく。

○地域学校園で健康（体力・保健・食・安全）に関する情報交換をし、指導の改善に努める。